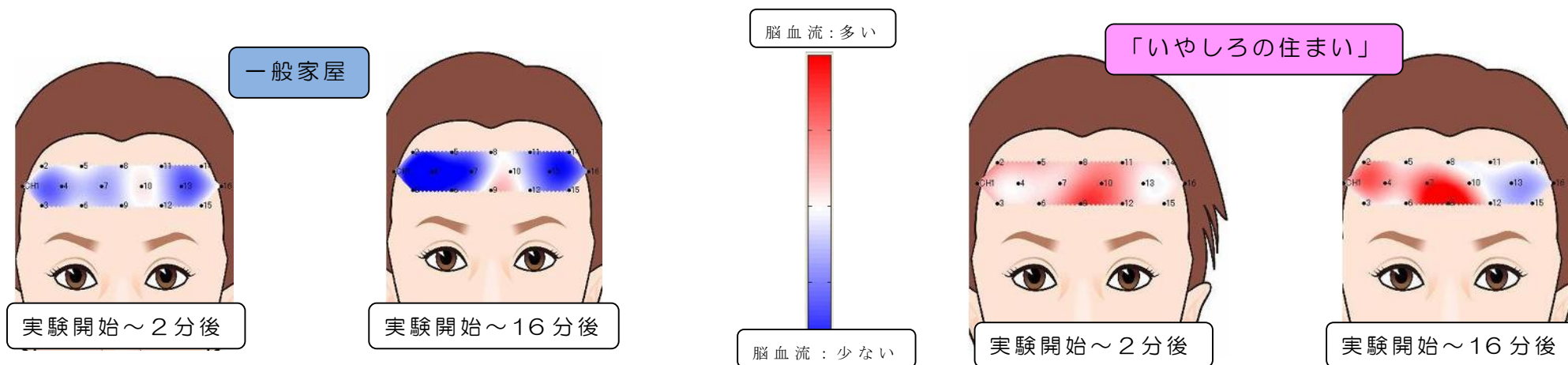


100歳健康住宅：「いやしろの住まい」

～子どもが利口になる家づくり、住む人が住めば住むほど健康になる家づくりを目指した結果が出た～

「100年住宅」という言葉をご存知ですか？これは「家が100年もつ」という耐久性を指して使われる言葉です。「いやしろの住まい」は「100年、家もつ」だけでなく「**その家に住む人が100年間健康に過ごせる**」という意味の「**100歳健康住宅**」を提案しています。「**いやしろの住まい**」に数時間居るだけで**脳の働きが良くなる**ことが「NIRS（ニルス）」という脳の働きを調べる機械によって、明らかになりました。数時間居るだけで脳の働きが良くなるのだから、この家に住むならば、子どもが賢く育ったり、年齢を重ねても脳の働きが衰えなくなったりする可能性があります。「いやしろの住まい」の、電磁波シックハウス対策・化学物質シックハウス対策が、このような素晴らしい結果を生み出しているようです。もちろん、アレルギー疾患のある方にとっては、文句なしのお家です。

これらの画像は「NIRS（ニルス）」の検査の結果です。検査した部位は、脳の「前頭前野（ぜんとうぜんや）」と呼ばれる部分（額の部分）で、その働きは「思考・コミュニケーション・記憶のコントロール・情動の抑制」など「人間らしさ」を司っています。脳に流れる血液の量（脳血流量）が多いほど、脳は活性化するとされており、額の部分の赤色が濃くなります。反対に、額の部分の青色が濃くなるほど、脳血流量は少なく、活性化していないことを示しています。



このように、一般家屋と「いやしろの住まい」では、脳の働きが、これほどにも違うことが解ります。

ちなみに、成人男女2名にも同じ実験を行ったところ、同様の結果が出ました。

文責：ウィ・スロウ脳科学研究部門

顧問 丸山修寛

主任研究員 齊藤緑